

# 令和4年度 行政評価一覧表(別紙)

「中間評価 ⇒ 二次評価」で評価が変わった項目

基本目標	基本施策	主要施策	通番号	主要事業	具体的な取り組み内容	主要事業の主な取り組み	担当課	KPI指標	単位	基準値年度	基準値	年度別(KPI) 上段:目標値 下段:実績		中間評価		二次評価		
												R3	R4	R4年度目標の進捗状況、現状課題、事業の次年度の方向性		行政評価委員会による評価		
														今年度のKPIの達成見込み・課題	次年度の方向性	二次評価コメント	次年度の方向性	
基本目標1	(1)日本一健康なまちをめざします	①健康寿命を伸ばすための健康づくりを推進します	2	健康運動教室や脳の健康教室など、体も心も元気にする介護予防を推進します	参加者一人ひとりの体力に合わせた科学的な運動プログラムで筋力アップを図り、体力低下や転倒骨折を予防し、高齢者の寝たきり予防と健康増進を図ります。	健康運動教室、脳の健康教室、健幸ポイント事業	健康福祉課	健康運動教室参加者数	人	R1	1,351	1,500	1,650	4.現状維持	■課題の整理 11月と1月に入会キャンペーンを実施し、市内の民間団体等と連携して達成に向けた取り組みを進めていく。 ■課題への対応 引き続き、健康運動教室事業、健幸ポイント事業等を継続し、市民の健康増進、生活習慣病の重症化予防に努め、健幸寿命の延伸と医療費抑制を図る。	4.現状維持	関連事業の最適化を進めながら健康運動教室等各種事業を継続し、健幸寿命の延伸と医療費抑制を推進していくべきことが必要であるため「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持
												1,203						
			3	健康運動教室や脳の健康教室など、体も心も元気にする介護予防を推進します	健康無関心層の行動変容を促し、ヘルスケア事業に参加してもらうことで、参加者一人ひとりの健康増進や生活習慣病重症化予防を図り、医療費の抑制に努めます。	SIBヘルスケア事業による医療費抑制	健康福祉課	健幸ポイント・生活習慣病予防プログラム参加による医療費抑制額	千円	R1	-	29,100	35,100	5.縮小	■課題の整理 SIBヘルスケア事業としては、これまでの事業実施により医療費の抑制効果及び、専門知見の蓄積も見られることから、外部コンサルティング及び評価業務の廃止など事業の最適化を図る必要がある。 ■課題への対応 事業内容および予算の最適化を進めながら、健康運動教室事業、健幸ポイント事業は継続し、市民の健康増進、生活習慣病の重症化予防に努め、健幸寿命の延伸と医療費抑制を図る。	5.縮小	SIB事業としての成果や、事業実施による知見の蓄積により目標達成が見込まれるため「5.縮小」と評価する。引き続き、事業の最適化を進め健幸寿命の延伸と医療費抑制を図ることとする。	5.縮小
												226,206						
			4	健康寿命を伸ばすための健康づくりを推進します	医療費抑制に繋がるヘルスケア事業を行うと同時に、その効果が相乗的に向上するようプログラム参加者の増加を図ります。	SIBヘルスケア事業への参加者を増加	健康福祉課	健幸ポイント・生活習慣病予防プログラムへの参加者数	人	R1	3,150	3,100	3,150	4.現状維持	■課題の整理 R4.10月末時点で達成を見込む。 ■課題への対応 SIBヘルスケア事業として一部事業の最適化を進めるが、健康運動教室事業、健幸ポイント事業は継続し、市民の健康増進、生活習慣病の重症化予防に努め、健幸寿命の延伸と医療費抑制を図る。	4.現状維持	関連事業の最適化を進めながら健康運動教室等各種事業を継続し、健幸寿命の延伸と医療費抑制を推進していくべきことが必要であるため「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持
												3,120						
		6	健康づくりを楽しく行える環境の整備を図ります	市内各地域コミュニティに安全で快適に歩くことのできる健幸ウォーキングロードを設定し、併せて健康遊具、健幸ベンチを設置し楽しみながら行う健康づくり環境の整備を図ります。	健康運動教室、健幸ポイント事業	健康福祉課	健幸ウォーキングロードのコース数	本	R2	22	22	22	4.現状維持	■課題の整理 R4年度、22コースを維持し達成。 ■課題への対応 引き続き、健康運動教室事業、健幸ポイント事業を継続し、市民の健康増進、生活習慣病の重症化予防に努め、健幸寿命の延伸と医療費抑制を図る。	4.現状維持	関連事業の最適化を進めながら健康運動教室等各種事業を継続し、健幸寿命の延伸と医療費抑制を推進していくべきことが必要であるため「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持	
											22							
		11	②地域医療体制の充実を図ります	市内への診療所等の医療機関の誘致に取り組めます	見附市内での診療所新規開業を促進するため、支援制度の周知を図ります。	進出医療機関への補助事業	健康福祉課	診療所開業支援補助件数	累計件数	R2	1	1	2	3.拡大(費用)	■課題の整理 診療所の減少や医師の高齢化が続き、今後も診療所の減少が見込まれる。誘致に伴う、補助申請件数R4年度は達成が難しい状況であるが、R5年度に3件の新規開業が予定されていることから、R5年度は達成の見込み。 ■課題への対応 今後も診療所の減少が見込まれること、また他自治体に比べ補助額が少なく、診療所誘致を進めていくためには支援内容の強化が必要。 R5年度の建築費高騰も踏まえ、補助上限額の増額検討が必要。	3.拡大(費用)	地域医療体制を維持・強化し、安心安全なまちづくりにつなげることは重要な施策であることから「3.事業費を拡充すべき事業」と評価する。補助制度の拡充及び、資材高騰など社会情勢に則した支援策の検討に努め、診療所誘致の強化に取り組む。	3.拡大(費用)
												0						

令和4年度 行政評価一覧表(別紙)

「中間評価 ⇒ 二次評価」で評価が変わった項目

基本目標	基本施策	主要施策	通番号	主要事業	具体的な取り組み内容	主要事業の主な取り組み	担当課	KPI指標	単位	基準年度	基準値	年度別(KPI) 上段:目標値 下段:実績		中間評価		二次評価			
												R3	R4	R4年度目標の進捗状況、現状課題、事業の次年度の方向性		行政評価委員会による評価			
														今年度のKPIの達成見込み・課題	次年度の方向性	二次評価コメント	次年度の方向性		
(2)だれもがいさいきと暮らせるまちをめざします	① 地域包括ケアシステムの体制づくりを推進します	13	地域のかやICTを活用して高齢者を支えていく、地域包括ケアシステムを整備します	支援する多職種が、登録者の医療や介護の情報をシステムにて共有することで、多職種間での円滑な連携を図ります。	認知症サポーター養成講座、見守り協定締結、在宅医療・介護ICT連携情報共有システム事業	健康福祉課	ICT連携情報共有システム登録者数	人	R2(1月時点)	73	200	300	220	■課題の整理 見附市立病院、市内開業医が参加したことで、登録者も増加しており、ICT連携情報共有システムを活用した連携が進んできている。R4年度の目標は達成する見込み。 ■課題への対応 住民ニーズやICT環境の変化に合わせ、提供サービスの最適化を進め地域包括ケアシステムの維持を図る。	4.現状維持	住民ニーズや環境変化に合わせた医療、介護サービスの最適化に努めていくことが必要と判断されるため「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持		
			② 高齢者の社会参加を促進します	14	交流と活動の場を広げ、高齢者の生きがいを推進します	定年退職などの節目に「第二の人生」を見つめ直すとともに、楽しみながら生きがい探しや仲間づくりをする人々を支援します。	ハッピーリタイヤメント事業	まちづくり課	悠々ライフ参加者数	人	R1	7,048	7,000	7,000	2,931	■課題の整理 新型コロナウイルス感染状況の落ち着きに合わせ、徐々に参加者は増えてきている。9月末で参加者数は、2,487人となった。 ■課題への対応 引き続き、感染症の状況に合わせて事業を継続し、交流や活動の場、生きがいを推進する。	4.現状維持	一部事業の最適化などはあるが、交流や活動の場、生きがいを推進に向け、手法の変更や見直しを進めるべきと判断し「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持
			④ 地域福祉の充実を図ります	21	生活困窮者に対する有効な支援を実施します	相談窓口の充実や企業への高齢者雇用の働きかけなどで、働きたい高齢者が働ける環境を整備します。	生活困窮者及び要支援者(低所得・障害等)への自立支援事業	健康福祉課	生涯現役促進地域連携事業における高齢者の就業者数	人	R1	47	50	50	31	■課題の整理 7月開催の就職ガイダンスの参加者は55名で、多くの求職者と企業のマッチングを図ることができた。また企業を30社訪問し、協議会の周知を行った。 ■課題の整理今後行われるセミナーや就職説明会においても多くの求職者・企業に参加して頂けるよう広報活動等を行っていく必要がある。	4.現状維持	交流や活動の場、生きがいを推進に向け引き続き事業を推進するべきと判断し「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持
			① 消防体制の充実を図ります	69	消防団の活性化を図ります	消防団員の確保対策を徹底し、組織の強化と活性化を図ります。	消防団車両及び装備の充実強化 消防団員の処遇の改善	消防本部	消防団員の実員数	人	R2	554	560	570	541	■課題の整理 未活動団員の調査を実施した結果、目標値を下回り、次年度以降も減少が予想される。しかし、ポンプ等装備の高機能化や、デジタル技術による消防団との連携の簡易化、本部体制の強化により、消防団機能の強化は進んでいることから、引き続き団員の確保に向けた周知を進めながら、人口減少や機能強化を踏まえた団員の適正数について再考が必要。 ■課題への対応 出勤報酬の増額検討も必要であるが、組織改編も含めた、条例定数の見直しから検討が必要。	5.縮小	団員の実員数の低下は見られるが、各設備の高機能化や組織体制強化は進んでいる。団員の適正数の再考のみをもって「5.縮小」と評価はせず、引き続き事業の活性化や広報の強化など行い適正化を推進するものとし、「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持
基本目標3 (4)歩いて暮らせるまちづくりを取り組めます	③ まちなかの賑わいづくりに取り組みます	84	まちなかに人を呼び込み交流する機会づくりに取り組みます	商工会や商店街、市民活動団体などが実施するまちなか賑わい事業や仕組みづくりを支援します。	まちなか賑わい補助金(イベント)、エリアマネージャー、商店街の仕組みづくり・働きかけ	地域経済課	商店街などが実施するまちなか賑わい事業の実施数	回	R1	4	4	5	4	■課題の整理 見附商店街にて、クイズストリート及びハロウィンイベントが開催された。コロナ禍での開催形態を模索する中、実施できていないイベントもあり、今年度の目標達成は困難な見込みである。 ■課題への対応 次年度は目標達成に向けエリアマネージャー業務を見直し、商工会や商店街をはじめ様々な団体と新たな体制を作りながら、引き続きまちなかの賑わいづくりに取り組んでいく。	4.現状維持	一部事業の縮小などはあるが、手法の変更や見直しを進めながら、引き続き取り組みを継続するべきと判断し「4.現状維持」と評価する。	4.現状維持		
			4	4	4	4													



令和4年度 行政評価一覧表(別紙)

「中間評価 ⇒ 二次評価」で評価が変わった項目

基本目標	基本施策	主要施策	通番号	主要事業	具体的な取り組み内容	主要事業の主な取り組み	担当課	KPI指標	単位	基準値年度	基準値	年度別(KPI) 上段:目標値 下段:実績		中間評価	
												R3	R4	R4年度目標の進捗状況、現状課題、事業の次年度の方向性	
														今年度のKPIの達成見込み・課題	次年度の方向性
基本目標4	(1)子育て環境の充実に努めます	① 仕事と子育てが両立できる環境を整備します	105	安全安心に子どもが過ごせる場所の整備など、児童を取り巻く環境の充実に努めます	放課後等に保護者が不在の家庭の小学生が安全・安心に活動できる場所を確保します。	放課後児童クラブや子どもの居場所の整備	こども課	放課後児童クラブ入会希望者数に対する登録児童数の割合	%	R2	90	92	94	■課題の整理 葛巻小学校区に児童クラブを新設し、入会保留児童解消に努めた。結果、R4.4現在の申し込みは503人、利用者は489人で97.2%であり、大幅に保留児童を減少することができた。 ■課題への対応 引き続き、放課後児童クラブの増設や、利用者が多い施設や、見守りが必要な子どもへの対応等の整備が必要。	3.拡大(費用)
												93			
	(3)地域の人材と資源を活用した教育の充実に努めます	② 文化財の保護と活用に努めます	127	文化財保護とその活用による市民の郷土理解の促進を図ります	見附市の文化財や人物、産業などの歴史郷土に関する企画展示を行います。	文化財保護審議会の運営、伝承館の企画展事業	教育総務課	伝承館での企画展示事業開催回数	回	R2	3	3	3	■課題の整理 今年度は1回の企画展示を実施。貝喰川大規模改修、市野坪排水渠工事等に伴う試験確認調査が災害対策において優先すべき事項であることから、事業の縮小が必要状況が続いている。引き続き、文化財保護と活用、市民理解の促進のため、実施可能な範囲で特別展の開催を実施していくが、令和5年度も1回程度の見込みとなる。 ■課題への対応 災害対策を優先する必要があるため、企画展については事業費縮小し、可能な回数の実施にて事業を継続する。	5.縮小
												3			
	(6)市民と行政の協働を推進します	③ 市民と行政との情報の共有化を図ります	147	行政情報や各種情報を、さまざまな媒体を活用し、わかりやすく市民に発信します	月1回発行の広報みやけや市ホームページ、SNSなど、様々な媒体を活用して市の情報をわかりやすく市民に届けます。	広報見附、市HP・SNS等での情報発信	企画調整課	(ア)市民アンケート「広報・広聴活動」満足度	%	R2	74.2	-	増加	■課題の整理 ICT・広報戦略部会での議論を進め、時代に即した広報活動への見直しが必要と判断。既存ホームページを市民が利用しやすいページへの改修を進めるほか、時代に即した新たなプッシュ型配信媒体を追加を進め、市民のニーズに合ったきめ細かな情報発信が必要。 ■課題への対応 市ホームページの更新合わせた機能強化及び、新規プッシュ型配信媒体の導入に向け、事業費および人員の拡大が必要。	1.拡大(人員+費用)
												-	実施予定		
(7)定住・関係・交流人口を増やす取り組みを推進します	③ 国際交流を推進します	154	市民に国際理解を深める場を提供します	国際交流への理解を深めるための講座・学習会を開催します。	国際交流講座	まちづくり課	国際交流講座・学習会回数	人	R1	1	3	3	■県の出前講座を利用し、2月に国際理解講座(ベトナム編)を全2回で開催予定。県には既に話を通してあり、今後講座の開催に合わせて市民への周知を進める。 ■課題への対応 コロナ禍を経て、今後も事業を継続できるか再度検討していくため次年度は現状維持とし、事業実施の状況と成果を鑑み令和6年度以降の方針は検討していく。	4.現状維持	
											1				
		155	市民の国際交流活動を支援します	国際交流活動等の支援を行います。	国際交流協会事業支援	まちづくり課	交流事業支援回数	人	R1	5	5	5	■課題の整理 国際交流協会に補助金を交付し、活動を支援している。また、1月に開催する新春イベントでは、国際交流協会とも協力して市内在住の外国人や技能実習生向けの日本文化体験等を行う予定。 ■課題への対応 コロナ禍を経て、今後も事業を継続できるか再度検討していくため次年度は現状維持、事業実施の状況と成果を鑑み令和6年度以降の方針は検討していく。	4.現状維持	
											3				

二次評価	
行政評価委員会による評価	
二次評価コメント	次年度の方向性
入会保留児童の解消は進んでいるが、希望に添えないケースや児童一人ひとりの状況に合わせた対応を今度も検討していく必要があるため、「3.拡大(費用)」とし、子育て環境の充実に推進するものとする。	3.拡大(費用)
市として災害対策は優先すべき事項となるが、地域資源を活用した教育の充実に向け、可能な範囲での事業実施を継続することは必要。試験確認調査は長期化することが見込まれるため、「5.事業縮小」とするが、事業評価指標の見直しを含め事業継続を検討していく必要がある。	5.縮小
市民生活におけるデジタル環境の変化に合わせた情報発信の適正化は必要となるため、新たなプッシュ型配信媒体の追加は必要であると判断できる。人員拡充については、専門性などを加味し人員の最適化に向けた検討が必要であるため、「3.拡大(費用)」とする。	3.拡大(費用)
令和6年度以降の適切な方針検討に向けて「4.現状維持」と評価する。事業成果を鑑み令和6年度以降の方針を検討していくものとする。	4.現状維持
	4.現状維持